

平成 29 年度 平戸市地域審議会議事録

1. 日 時：平成 29 年 11 月 27 日（月） 午前 9 時 30 分～
2. 場 所：平戸市役所 3 階中会議室
3. 出席委員：黒崎洋介委員、木村孝市委員、寶亀巡幸委員、福田詮委員、松口茂生委員
福海晶子委員、浦富伸幸委員、市山龍三委員、峯篤委員、赤木志保子委員
欠席委員：前川栄治委員、大浦正巳委員、山中兵恵委員、藤澤美好委員、里崎美彰委員
職 員：副市長 町田和正
企画財政課長 小出圭治、企画財政課企画統計班長 藤山修一
事 務 局：総務部長 松田隆也、地域協働課長 峯野正博
地域協働課協働政策班 江川佳徳、地域協働課主任主事 山口
4. 傍聴人数 なし
5. 審議案件等の概略及び審議結果

○協働政策班長

皆さまこんにちは。定刻になりましたので、只今より、平成 29 年度 第 1 回平戸市地域審議会を始めさせていただきます。まず、今回、委員の改選が行われていることから、委員就任にあたり、委嘱状の交付をさせていただきたいと思っております。なお、委嘱状交付につきましては、代表して黒崎洋介様にお受け取りいただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

～委嘱状交付～

（副市長より、黒崎委員に委嘱状を交付）

○協働政策班長

他の委員の皆様の委嘱状につきましては、机の上に事前に配布させていただいておりますのでご了承をお願いします。

続いて、開会にあたりまして、副市長の町田和正がごあいさつ申し上げます。

～副市長あいさつ（あいさつ後公務のため退席）～

○協働政策班長

本日の地域審議会でございますが、5名の委員さんより欠席のご報告を受けていまして1名の委員さんのみ連絡をいただいております。現在の出席者数は15名中9名ご参加いただいております。

地域審議会の設置に関する協議書第8条第4項の規定により、過半数に達しておりますので、会が成立している事を宣言させていただきます。

～委員入室（峯委員）～

○協働政策班長

それから、議事録作成のため、本会議の会話を録音させていただきますので、ご了承くださいませようお願いします。

早速ですが、事務局より委員の皆さまをご紹介します。

～事務局より委員紹介～

～事務局職員紹介～

○協働政策班長

続きまして、地域審議会の設置に関する協議書第8条第5項の規定により、会議の議長は会長をもって充てるとなっておりますが、現在、委員改選により会長及び副会長が決定しておりませんので、会長及び副会長の選任を行いたいと思います。どなたか立候補される方はいらっしゃいますか。

（立候補者なし）

○協働政策班長

なければ事務局案をお示ししたいと思いますよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声）

○協働政策班長

それでは、事務局案といたしまして、会長に平戸市社会福祉協議会会長の黒崎洋介様、副会長に平戸地区区長連合協議会会長の木村孝市様をご推薦させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声）

○協働政策班長

「異議なし」との声がありましたので、事務局案で決定させていただきます。ありがとうございました。

～会長及び副会長あいさつ～

○協働政策班長

ありがとうございました。

続きまして、新しく委員になられている方もいらっしゃいますので、地域審議会の概要について事務局より説明させていただきたいと思います。

～地域審議会概要説明（地域協働課）～

○協働政策班長

それでは、地域協議会の設置に関する協議書第8条第5項の規定により、「会議の議長は、会長をもって充てる」となっておりますので、これからの進行を会長のほうにお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○会長

はい。ここからは私の方で進行をいたしますので、皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは最初に、本日の議事録署名人を決めたいと思います。

私の方で指名させていただきますがよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○会長

本日の議事録署名人は、福田委員と福海委員にお願いしたいと思います。

それでは、さっそく本日の議事に入ります。まず、最初に「第2次平戸市総合計画の基本構想について」事務局より説明をお願いします。

○企画財政課長

お時間をいただきありがとうございます。事務局より事前に資料をお配りいただいているかと思いますが、資料に基づきながら説明させていただきます。

まずこれまでの経過を説明いたします。この構想をつくるにあたり、総合計画の審議会を設置しております。21名の委員さまにご審議をいただきまして、その中で今まで4回審議をいただいております。また、基本構想をつくるために、21名の委員の中から6名の方に起草委員会をつくっていただきまして、これまでに6回の協議を重ね、皆さまのお手元にある構想を作り上げております。これを審議会のほうで了承を得まして、お配りしているところですが、委員の皆さまの中から、今度の計画は市民にとって分かりやすい表現にしてほしい、また、ストーリー性があるものにしてほしいというご提案がありました。それを受けまして、最初のこのプロローグを作っております。皆様もご承知のことと思いますが、藤浦洗さんの

詩を最初に持ってきております。平戸出身の著名な藤浦先生、北部の方は特になじみがあると思いますが、全市的にご存知ない方もいらっしゃるかもしれないということで、「月の夜ばい」から取り組んでまいりました。ここで、下のほうに、これまでの平戸の歴史を書いているものでございます。

※次頁より資料に基づき、企画財政課長より説明

(自己都合により委員1名途中退席)

○会長

以上、事務局より説明がありました。この説明に関して各委員からご質疑・確認などあればよろしく申し上げます。

なお、会議録作成の都合上、ご意見、ご質問等があられる方は、ご自分のお名前を言われて、手を上げていただき、こちらから、お名前をお呼びしてから、ご発言いただきますようお願いいたします。何かございませんでしょうか。

○委員

6ページの「にぎわいをつくりだすまち」の中に、交通のインフラの整備に伴う交流人口の拡大が予想されると書いていますが、今の西九州自動車道の進み方では、10年はそこら、20年もいくらかかるといようなことでございます。これに対して、どういう対応をしていくのか。そういうことはどこかに謳っているのか。それからもう一つ、最初のほうに、「今まで航海をして参りました」とあるが、この「航海」という言葉はどういう意味をもつのか。2点お願いします。

○企画財政課長

最初に交通インフラの西九州自動車道の関係でございしますが、この基本構想の中で、最初は、西九州自動車道と明記をしておりました。委員さんの審議会の中で、大きくまとめた方がいいのではないか、佐世保から東彼までの自動車道もありまして、今は、一度佐賀の方に行かないと、大村・長崎方面にはいけません、佐世保から東彼までをつなぐということを要望する団体もあります。平戸市もそこに入っておりますが、そういったことで、複数の路線があるということで、個別の名称を書かずに、こういう表現にいたしております。また、この基本構想では、ここで書き込みが終わっていますが、ピラミッドの3段階の真ん中の計画の段階、ここでは、個別の名称は出てきます。この基本構想においては明記しておりません。それから、「航海」ということですが、このタイトル、事務局案では最初はここはなかったんですが、未来のことばかり書きすぎているというご意見がありまして、やはり、過去も振り返って、反省もあるのではないかとということで、言葉としては、振り返りながらということですが、先に荒波を乗り越えるという形を表現しましたが、ここが、これまでやってきた施策あたりでも、結局、結果が出なかった部分、足りなかった部分などの反省も踏まえて、今後の未来に向かっていこうという意味合いで、振り返りながらという形にしています。

「航海」という言葉は、「未来創造羅針盤」というタイトルではございますが、航海という大きな流れ、テーマとして作りこみをしておりますので、この言葉を使っているところでございます。

○委員

まず20ページの人口ビジョンの所で、平戸市の推計と社人研の推計に約8,000人ほどの差がある。平戸市の場合はどういう根拠で20,000人という数字を持ってきたのかお伺いしたいのと、全体的に読ませていただいたが、本来ならば数値目標がないと向かって進めないのではないかと思うし、抽象的で具体性が欠けているのではないかなと思います。10年後ということだが、10年後、大体今の5、6,000人減っているということを念頭に置いた基本的な構想になっているかどうかというのをお伺いしたいと思います。

○企画財政課長

この20,000人という数字の根拠でございますが、これは、いろんな小さな組み合わせを積み上げているところで、作り方というのが具体的にあるんですが、例えば出生率、合計特殊出生率というものがありますが、それを2.5を目標にしております。そういう出生率をまず定めて、それから何人ぐらいと計算をしていますが、最終的には、目標ですので根拠はございません。ただこういう下がっていく数値を見たときに例えばとある市では、平戸市より10,000人以上多い目標を掲げたところもある。ですので、あくまでも将来的な目標で、高いほうがいいというわけではなく、目標にならないところも出てくる。では、平戸市が現実的に達成可能な目標は何なのかというところで数字を予測しているところです。また、自然増減と社会増減という言葉がございますが、自然増減は生まれる亡くなる、社会増減は転入転出、先ほどの目標の中にもありましたが、移住定住にも力を入れていって増やしなが、今よりもっと減少率を抑える、そして新たな転入者を増やす、そういったところで、この数値を使っているところでございます。また、数値目標ですが、おっしゃるとおりですが、基本構想では数値目標が出て参りません。それぞれの具体的なものは「計画」の方で入って参ります。例えば、観光あたり、外国人の宿泊客が現在1万5、6千人、それを5年後には具体的な数値を現在部会のほうでつくっているところでございます。この成果指標ですが、かなりの数の数値目標がありまして、これを後追いでいくような方針になっています。例えば第1次の総合計画では、人口目標を33,333人サンサンプロジェクトと呼ばれていましたが、それが実際は、国勢調査では31,950人で、目標より1,000人以上低かったという形にはなっています。大きな目標もありますが、部会で作成している分については、30以上の個別の目標が出てきます。それを最終的には決めますが、皆様のお手元に届くときには、こういう具体的な数値目標も出てくるようになります。基本構想はあくまでも包括的なものになっていて、真ん中の「計画」が個別具体的な計画と数値目標があるというところでございます。

○委員

もうひとついいですか。先ほど〇〇委員もおっしゃいましたが、交通のところで、完全に公共交通というところが抜けているんです。市が生き残っていくためには、公共交通というのが最も大事なことだと思いますが、正直調べたところ、10年前からすると、西肥バスの佐世保行きの現在の便数が17便ですが、約3割減っている。私も観光のほうに約40年ほど携わっているが、正直お客さんの声を聞くと、不便だという声が多い。車で来ているお客さんではなく、年配の方です。今は観光バスが来ていますが、あれは、あと5年もしたら今の約2割ぐらいに減りますよ。団体客というのはほとんどなくなりますし、先ほどから言っているインバウンドですが、もう個人間になってきます。そうなってきた場合に、この公共交通をしっかりと確保しておかないと、やはり厳しいのではないかなと思います。先ほどの人口の2.5ですか、国の数値は1.5ぐらいでしょ。2.0を越しているのは沖縄だけなんですよ。ですからその2.5人という数字がかなり甘いのではないかなと思っています。

○企画財政課長

今のお話ですが、確かに西肥バスが一昔前は30分に1本ありました。今は、時間帯によっては1時間に1本しかないんです。福岡や長崎空港からそれぞれのジャンボタクシーなど高速バスを使って佐世保に入ってきます。時間がずれると平戸に来るのに3時間ぐらいかかってしまいます。それを考えると、いけないなというのは我々も分かっているし、特に観光も、担当課もここをどうするかということになるんですね。北部の方は、歩いてまわれますが、生月の方に行くとなると、バスのみです。生月バスのみです。中南部に行くときふれあいバスになってきますので、現在は幹線のみです。それを維持していくのも大変ではあるのですが、しかしこれについてはやめるわけにはいきません。ところが、付帯的ないろいろな課題が出てきます。当然一度にできることは適いませんので、重点化を絞りながら、例えばクルスの丘という生月の世界遺産関係であります。大型バスが入れない。そこを拡大するよう予算計上しておりますが、少しずつできる範囲で取り組んでおります。高速バス等においても、できないかというような話しはしているんですが、やはり採算がとれないということで難しいということは聞いてますが、そこはあきらめることなく、どうしたらできるのかということも考えながら、取り組んでいきたいということは聞いております。

○企画財政課企画統計班長

先ほど〇〇委員が言われた出生率のところですが、国の方は1.4とかだったと思いますが、今回この総合計画の基本構想において人口ビジョンの分は、平成27年度に平戸市総合戦略というものをつくっております。その中で採用している出生率が、長崎県が毎年出している出生率を基に出しております。これを策定したときの基準値ということで出しておりますが、確か平成26年の分だったと思いますが、2.24ということで数字が出ておりますので、そこからの2.5ということで、国の数字が出発ではないというところでご理解いただきたいのと、県の方が今年中に出生率の出し方を変えるようでして、今平戸市はこの数字で推移してきているんですが、全体的に下がる見込みです。精度を上げるという意味で上げると思

いますが、今の時点ではこの総合戦略をベースにしているということでご理解いただけたいと思います。

○委員

ある程度近い数字じゃないと、目標値と実数値がかけ離れていきますから、そちらの方が市にとって非常に困ると思います。理想ばかり追っていたら足元見失うのではないかなと。

○会長

市の方としては、ある程度見据えた上での計画を立てられたのではないかなと思います。どうでしょうか、再度委員さんのご意見を取り入れていただけるかは確証はないところかもしれませんが、ぜひご検討いただきたいと思います。

○委員

初めてこの会に参加してどういうことを審議しているのか分かりかけたところですが、ただいま〇〇委員さんがおっしゃったように、目標は実情に合った、その根拠による目標を掲げないと、合わない羅針盤をつくったら船が難破してしまうのではないのでしょうか。

新市が発足して、羅針盤の効果がどれほどあったか私も知りたいので、先ほど「航海」というお話がありましたが、私は最初公に開く「公開」かなと思いました。議事録を作成するという事ですから、その作成した議事録を冊子として見せてもらえるのかどうか。それから市議会の議員さんにそれをお渡ししているのかどうか。そうしたところも知りたいと思っています。羅針盤は、この航海の案内ですから、表（船首）のブリッジ（艦橋）に市長が乗って、議員さんもそれに乗って一緒に櫓を漕いでいるのかなと、そして時化にあったときに市民が船から落ちないように上手く操っているのかなと思うわけです。

それから、観光業や交通便等のお話がありましたが、先日の市政懇談会の折にも発言しましたが、平戸市が合併して、生月、田平、平戸島、度島、大島が一つの市になったという。平戸大橋と生月大橋が架かって、その上無料になりましたが、度島、大島が全くそのままです。朝早い便や夜遅い便がまだまだできていないし、別々のフェリー会社で運営しているものですから、島同士の連絡、それから通院、通学、通勤、これが全くできないし、どうしても佐世保とか平戸、遠くの病院にかからなければならない人が、車を平戸に預けて、そしてそれに乗っていているわけです。そういった離島の不便さ解消も高速道路の整備とか以上に大事じゃないかと思っています。

○地域協働課協働政策班長

議事録というのは、この審議会の議事録という意味でよろしいですか。会議終了後に策定しておりますので、お渡しもできますし、ホームページでも掲載しておりますので、差し上げることは問題ありません。

○企画財政課長

離島はですね、大島の方に風力発電があるのはご承知だと思いますが、昨年度から配当をいただいております、4,000万円ぐらいいただいているところです。それを原資としまして、離島活性化基金ということで、島民のフェリー代の割引をしているところです。それをしたにしても、両方ともワンコインということで500円以内に収まるよう基金を使って支援をしている状況。どちらの島においても人口は減っております。度島の15歳未満の数と大島の数では度島の方が現在多い。今そういう現状でございます、特に離島では危機感を持っているところがございます。そういった現況も当然私共も把握しておりますので、今後、離島ならではのことをやれるようなことを、事業化を図れるようなことは考えております。大島については、今ちょうど船を設計終わって発注するところなんです、大型化になります。これまで乗らなかった車がクリアできる。他にも複合的な余裕もありますが、ゴミ処理関係も含めて、そのための大型化でもありますが、大島は現在1日5便、以前は4便でした。ぎりぎり学生は通える時間帯にはなっているんですが、1つずれると帰れなくなる、市の職員も一時期通っていましたが、やはり大変だということでこちらに住んでいる状況。いずれにしても離島の支援については、支所もいろいろ考えているようですが、この構想に具体的には出てきませんが、計画には、特にこの7つの地域のそれぞれの目標などを記載しておりますが、計画においては、7つの地域の希望取組みに対して、行政の関連する事業はどんなものがありますよという体系立ててしようと思っております。最終的にはそういう取組みにつながるようお示ししたいと思っております。ご意見のほう踏まえて精査をしていきたいと思っております。

○委員

18ページの支出の明細についてお尋ねしたいと思います、支出総額が268億円でその内訳で、民生費が多く占めております。他にも農林水産、土木、商工費などは、10年前と比べて、金額もパーセンテージもそんなに変わりませんが、民生費については17億円ということで、民生費が一番多いがその内訳について、なぜ他のよりも民生費が多いのか。

○企画財政課長

民生費は委員ご指摘のとおりで、大きくなってきております。当然高齢化が伴ってきますと高齢者の人口が増えてまいります。対象者が増えていくということになります。そういったことから、高齢化に伴いまして、当然金額も上がっていくという傾向に変わりはありません。また、子供関係についても国がどんどん施策を進めてきて、例えば、国の補助が1/2で県が1/4、残りを自治体が負担する、そういった負担が多いのですが、保育園関係が安くなったことから子供を預ける方が増えています。12月議会でも増額の提案をいたしますが、現実的に毎年保育費も増えております。現在3人目から無料になっておりますので、どんどん増えている状況です。1/4前後は市の負担であります、当然国・県の補助についても比例して増えております。ただおっしゃるとおり、上がっていくばかりで、他の、ここには反映されませんが、介護保険や国民健康保険などそういったものが厳しくなっていくのかな

とっております。

○委員

まず、これを作成するに至って、21名の委員さんが参加され、部会のほうでも起草委員会を立ち上げたということで、行政のプロの方々が主導となって、私たちが見せていただくまでの段階をつくっていただいたということに非常に感謝申し上げます。夢や未来、将来の10年後、20年後に向けた指針が出来上がっているのかなと思っております。内容につきましては、委員の方々が知恵を絞って作られたものですから、いろいろということとはございません。私も一市民の立場からして、いろんな意見が出ましたが、交通の便や子育てや非常に今後の平戸市にとって重要なことだと認識しているところです。その中で交通については、よそから比べると10年15年遅れていると、私も他の県の会議などに出させてもらっている中で感じるのですが、そこはどうしても予算関係や、高速については国とかでするので、市単独としては難しいというところは実質分かっております。平戸の中で、例えば魅力的なもの、実際できるできないを別にして、一市民の立場で言わせていただければ、テーマパークをつくるのか、子供が楽しめる遊具施設とか、ここにしか無いよというものがあれば、少々道が悪くても細くても時間がかかっても、平戸じゃないと無いよねと、食べ物にしてもそうですが、平戸のあそこでないと食べれないよという物を、探せばあるとおもいますが、あとはそれをどういう風に情報発信していくかということもあると思いますが、そういう「宝」というところをもう少し大事にさせていただいて、どんどん交流人口も増やしていってもらえればなと思うところです。それから、定住ですね、やはり人間が増えないとやりたいこともやれないし、本当に「人」というものが一番の「宝」だと思いますし、もちろん職がないとなかなか難しいところもありますが、市の方でも戦略会議ですか、いろんな手立てを考えていると思っておりますが、雇用の場をもう少し確保しながらやっていかないと、厳しいところがあるなと認識しておりますが、実際私の職場においても、定住していただけるように、臨時職員を正職員にしたり、市の職員だといろんな問題等もあるので難しいと思っておりますが、〇〇〇については、基本的に定住させるために、職員を臨時から正規化して、実際お嫁さんをもって、子供が産まれて、人口が増えたという状況もございますので、そういったところの働きかけということもやっていただきたいなと思っております。

○企画財政課長

ご指摘のとおりです。本来平戸の場合、いろんなものがありすぎて絞れないというもどかしさもございます。逆に他市町村の方々から言われるのは、何でもあっていいよねと、食もあるし、自然もあるし、お城もあるし、とよく言われます。逆に言うと1点集中ができないということもございます。ただ、現在ブランド化事業というものを、都市圏に平戸の物産を出していますが、高齢化に伴い作れなくなっていくということも考えられます。農業で言えば、「ハウス」ですね、アスパラやイチゴをよその方が平戸に来てやられている研修中の方もいらっしゃいます。今年度終われば独立されるということです。少ない数ではございますが、この事業は継続的にやっていかなければ、物があっても作る人がいなくなったら、ま

すますじり貧になってきますので。またあるホテルでは、地元の製品を使っていただくとか、蘭風がかわりましたが、朝ごはんには川内かまぼこをとっていているという話も聞いておりますし、地元のいい物があればどんどん使ってPRしていく、ただ難しいところが、団体の皆さまとやっていかないといけないのですが、今は、全国どこも競争です。同じような計画をどこでもつくっていて、企業誘致なら、うちは1億出す、ここは2億出す、そういった話ばかりしていたらきりがありません。また、平戸市が一番厳しいのが、田平に工業団地つくっていますが、働く人が確保できるのかという不安、まだどこが来るというのが決まっていなくて、佐世保でもそうだったようですが、一部上場の大きな企業が、子会社でも構いませんが、入ってくると、求人がどんと集まるらしいです。それが、あまりメジャーでない中小企業が入ってくると難しいというような話も聞きます。江迎のハローワークでは、有効求人倍率が1倍を超えている。アルバイトやパートさんも含まれていますので、正職にすると1倍に満たないんですが、求人はあるが全然うまらない、ミスマッチがあっているんです。宿泊業関係や福祉関係、あとは資格を持っている方々、そういう求人はたくさんあるが、ミスマッチが起こっている、そういう現状ということで把握もしておりますので、今後に向けて変えていきたいといったところでございます。

○委員

私は度島に住んでいて、いろんなことでやはり不便がありまして、先ほど○○委員が言われたとおり、度島には診療所がありますが、専門外になると、こっちにきて、平戸で終わればいいですが、その後佐世保の病院まで行かないといけないとか、やはりそういうのすごいい不便があるんです。そして、時間に追われた生活、フェリーの時間が、昼の時間だと2時のフェリー、それに間に合わなかったら5時のフェリー、常に時間が迫っているような状況ですが、また何にでも当てはまりますが、人口減少と言われていますが、子供が育って大人になって巣立ちますが、度島から出て行くのは、度島が不便だから出て行くというのが一番なんですね。私は今度島で仕事をしていますが、平戸で仕事をしている方も結局時間を制限されてやっている方もたくさんいます。そういうことで、時間に制限されることなく仕事ができたり、子供達も帰ってくる、不便だと思われぬようなそういう生活ができれば、そういう未来があったらなと思います。

○企画財政課長

難しい質問ですが、お気持ちは十分分かりますし、度島地区でまちづくり運営協議会の会議に参りまして、ここに載せている分についてお示しをしてきました。また、ワークショップ形式で平戸の各地域に行って、2回ずつ会を行いました。度島については別に行き、やはりそれぞれが具体的なお話をいただいています。そういう意見を私どもも吸い上げて、全部ではないですが、ここに含まれる形にして、具体的な事業は、その真ん中の計画の中に謳い込みをしていきたいと思っております。またこういったご意見をたくさん寄せられておりますが、毎年経過措置を見ていく形になりますので、例えば全然改善されていないとなると皆さまの声が高くなってまいりますので、では、前期計画5年間分を作っていますが、では

後期では重点化してやらなければならない、そういう作り方にしようと思っています。第1次は10年計画でしたので、途中で見直しはするんですが、今回ははっきり分けましたので具体的な目標と全然違う結果だから改善しましょうと、こういう新たなニーズが出てきたりとか、こういうのをカバーしないということがありまして5年ずつに今回しておりますので、ああそうなんだで終わるのではなく、行政の情報網をきっちりチェックしながら、いろんな場所で意見をいただければ今後につながっていくと思っておりますのでよろしくをお願いします。

○委員

度島大島については、実際住んでみないと分からないとよく島の人には言われるんですが、確かに離島の方には手厚い支援というかそういったものが必要だと思います。当然私が言ったからどうなるというわけではないですが、お気持ちは十分分かりますので。

○委員

同じことを繰り返し言うことになるかもしれませんが、先ほど〇〇委員さんが言われたように、離島の不便さの話が出ましたので申し上げますが、島内でいくら協議しても解決できないものがある、これが第1に船の便、交通の便ですね。一度申し上げましたが、不便なことが、便数が少ない、朝早くの便と夜遅い便が無い、それから島同士が連絡ができない、これらを解消するための提案なんですが、どちらも、市営の大島フェリーも、度島の個人の竹山フェリーも、補助金で賄っているんですね。前年度の状況を見て赤字を補填するような状況だろうと思いますが、これを一つに統一して、市長の答弁では、個人経営だから難しいというようなお話しでしたが、いっそのこと、大島も一緒にやってくれと、それで向こうと一緒にできないというのであれば取り上げていいのではないかと私は思っています。ぜひ一本化して便数を増やして、平戸を出たら度島に寄って、2つずつ港がありますが、度島も大島も一つにして、度島に寄ったら大島にというような、そうすれば、大島から度島に行くときに、わざわざ平戸まで来てから渡ったり、高いお金を出してチャーターしたりといった不便さが解消されるのではなかろうかと思えます。それから大島支所に勤める方も向こうに下宿しています。農協に勤める方も単身赴任でおります。そういう不便さも少しは解消されるんじゃないかと思えます。少しでも離島でなくなった生月・平戸島と少しでも格差をなくすことが大きな目標じゃないかと思えます。地元の方の運賃を補助したことで解消したわけではないと思えます。せっかく合併したんですから島同士の不便さの格差をなくすことを目標にしていただけたらなと思えます。

○会長

あくまでも基本構想の方でございますので、意見はいろいろありますが、事務局のほうで意見をまとめていただけたらと思えます。

○委員

この地域づくりプロジェクトの地区がありますが、DV のキャンペーンでオランダ商館から街中をずっと歩いてきたのですが、道路はきれいになっていますが、通る人がいないんですよ。お店も閉まっている所が多い。時間はまだ6時前だったんですが、だから、せっかくこういった構想をたてていますが、市民の方にも、そういう意欲というか、引き出すような、そういうのがほしいのではないかなと思います。行政だけでワーワー言っても、市民も乗ってこないと上手くいかないだろうし、もう本当に寂しくて、その辺をどうすればいいのか分かりませんが、市民の意識を上げて一緒にしていけないとなかなか難しいんじゃないかなと思いました。

○企画財政課長

特に崎方方面から、今、県道が走っていますが、電柱が無くなって、今からきれいになってくると思われます。ご指摘のとおり、今空き家が増えて駐車場化したり、後継者がいない商店の方が、店が閉まって、そういう方々に限って、貸していただけませんかという話しても、こうこうだからダメといった具体的な話をされて、支援というかカンフル剤入れてでもやらんばという気持ちは行政の方は持っております。そういうギャップがありますが、やはり今後観光交流も含めた交流人口の増加を図るためには、やっていきたいということは謳っておりますので、一歩ずつ商店街の皆さんとも話しをしながら取り組んでいきたいと思っております。

○委員

皆さまから非常に貴重な意見をいただきましてありがとうございます。平戸商工会議所の立場から言わせていただきますと、平戸の旧市街地の町並みにつきましては、国・県・市のご協力をいただきまして、店舗の前面をきれいにする、城下町らしくするというご協力いただいております。今度の会頭も新しくなられて、現在、軽トラ市を計画しております。一番懸念しているのは、平戸警察署の交通規制なんですけど、署長が非常に協力的で、海側の道路、昔の旧道路、交代交代にしようという計画を詰めております。遅くとも来年には確実に、1ヶ月に1回程度、日曜日の半日のみ、品物を積んで軽トラで集まって、シャバ代はできるだけ安く、農業者、漁業者、商店街に協力いただいて、今木引田町と宮の町で話をして商店街からのご協力をいただくようにしております。心配するのがお客さんがどれだけ来るかということですが、11月には津吉の方で軽トラ市がありましたが、5台来て、出店をして、軽トラの荷台に物を積んでいくので非常に管理がしやすいということで、九州では宮崎県の高鍋町が軽トラ市をやっているんですが、市内の人ではなくて、市外の方がほとんど買いに来るそうです。そうすれば今後、そういうふうな高齢化がますます増えてくるということで、松浦の御厨や志佐でも軽トラ市をやっていますが、できたら、県外から、平戸市外から、平戸の農産物、海産物を、非常に魅力がある、農業者、漁業者のためになりますので、平戸の商工会議所としてもそういうことで計画しておりますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

○委員

今〇〇委員がおっしゃったことは大変いい事だと思います。先ほどからずっとお話しが
あっておりますが、我々農業者に対しても日頃から補助金等いろんな支援をしていただい
てありがとうございます。できましたら、もう少し小さい農家、農業、漁業者への補助とい
いますか、農業するにしても規模によって補助が出なかったり、一人ではダメだったり、そ
ういうところがある。ですから、もう少し基準を下げてもらって、誰もかれもというわけに
はいかないが、そういうやり方で補助していただければなと思います。先ほどの〇〇委員の
話も、農家の方や漁業の方に話して、集めて、できるだけ多くの軽トラが参加できるように
お願いしたいと思います。

○委員

先ほどの関連ではないですが、私も仕事を辞めてから、ぶらぶらと街中を歩いていますが、
正直歩いていて面白くない。私も日本全国あちこち歩いてきていますが、とにかく歩いてい
て、面白くないというか、楽しくないというか、それはしかけの問題だと思います。途中途
中に立ち寄るスペースとかがない、看板とかも貼るだけで、都会の道って長いんですが、そ
こにはしかけがあるんですね。ショーウインドウがあったり、いろんな壁があったり、観光
客が言うのもそこで、来てもお茶を飲むところがない。そういうしかけ自体も市の方が指導
してつくとかいうことも考えた方がいいのではないかなと思います。やはり賑わいのあ
るところはそういう仕掛けがしてあります。

それから、先ほどの〇〇委員の話ですが、軽トラ市はどこでもやっています。後は、継続
してやることだと思います。それからマスコミをうまく利用してどれだけ告知できるか、も
うパンフレットの時代ではない。インターネットや SNS 等を利用すればすむことですから。

○会長

はい、皆様方から多くの貴重なご意見をいただきました。他に何かございませんか。無い
ようでございますので、これで「第2次平戸市総合計画の基本構想について」を終了させて
いただいて、その他の件でみなさまから何かございませんか。

○委員

一人暮らし体験についてお尋ねしたいんですが、薄香地区において1ヶ月に1組か2組
ぐらい来られておりますが、区長や役員の意見で、来るときは市の方から連れて挨拶に来ま
すが、いつ帰ったか分からない、帰るときに全く挨拶がない、しかも、私も感じましたが、
1週間という予定できているのに、2日とか3日で帰る人がいるらしいんですね。それでい
ろいろ調べてみたら、宿賃を浮かしているような感じもあるんですね。そういう人に限って、
5人とか6人とか家族で来ていつの間にか帰っているといった状況が結構あるんですよ。
ですので少し改善していただけないかということと、地区の方から言われているのが、来ら
れた方との懇親会をしてもいいよという意見を聞いております。あと、その方たちがどうな

ったかという事後アンケートでも結構ですので、見せていただければ、受け入れ側の方としても改善ができるのではないかなと思います。

○地域協働課長

今現在、薄香地区に1棟あります。来月からもう1棟、木引田の方に現在契約を進めているところです。〇〇委員さんが言われるように、実際あそこが共同アンテナを使うということで、区長さんにごあいさつして下さいということで言っていますが、帰るときにごあいさつが無いということについては担当と話して徹底させていきたいと思います。実際に来られる方というのは様々で、2週間と行って来ても、やはり住めないですと、2日で電話1本で帰る人もいるというのは現実です。後は先ほどの「泊まるだけ」というケースは無いとは思いますが、中には外国から来られる方もいらっしゃる、本当に様々ですので、たまたま今度は職員の家族が隣に住んでいるもので、一声かけていただくようにしていますので、入られたときに打診はしていきますが、やはりプライベートなことなので、中には嫌う方もおられるかもしれないので、そこは慎重にやっていきたいと思います。地区の方々におかれましてはいろいろとお世話いただいてありがとうございます。今後ともよろしく願います。

○委員

ご質問がないようですので、我田引水になるかもしれませんが、全国47都道府県の中で長崎県におきましても「乾杯条例」がようやく成立いたしまして、他の市町村でも乾杯条例ができているわけですが、日清・日露戦争の時には、税の確保が困難で、郵便貯金と酒税で賄ったそうです。平戸市においても2件の蔵元がありますので、特にまた、日本酒や焼酎を製造しているところは、地元の米や海産物を利用して、酒を造ったり、焼酎を造ったりしている実績がありますし、そしてまた、今、衛生法の法律が変わろうとしています。具体的な話をすれば、酒税法では清酒、しかし外国で造っている酒も日本酒と書いている場合があります。東京オリンピックを境にして、日本で作っている酒のみが日本酒であって、ぜひとも地元の特産品を、そして、酒を飲むときには地元の酒で乾杯ということでお願いできればと思いますので、どうぞよろしく願います。

○会長

はい、予定の時間もかなり超過しているようでございますので、この辺で本日の議事日程を終了いたしたいと思います。委員のみなさま大変お疲れ様でした。この後閉会までを事務局のほうにお願いしたいと思います。

○総務部長

それでは、私の方から御礼を申し上げます。本日は終始ご熱心にご協議いただきましてありがとうございます。本日10時から12月議会の議会運営委員会がございまして、途中中座させていただきました。総合計画については、既にお聞きしたかと思いますが、平成30

年度から平成 39 年度までの 10 年間の重要な上位の計画でございまして、今市民の方々にご意見を賜っているところでございまして、本日いただいたご意見を踏まえて、素晴らしいものが出来上がるものと期待しております。またその他につきましても様々なご助言をいただきまして、今後も様々なご意見をいただければと思いますので、私も目標は皆様方と同じでございますので、いかに良くしていくかということで、これからも進めてまいります。本日はご協議ありがとうございました。

(午前 11 時 30 分 地域審議会終了)

6. 会議資料の名称及び内容

- ①平成 29 年度平戸市地域審議会次第
- ②平戸市地域審議会委員名簿
- ③地域審議会の設置に関する協議書
- ④地域審議会の運営等に関する規則
- ⑤平戸市未来創造羅針盤 基本構想案

7. 会議録の公開

公開する

8. 会議録の作成者の職氏名

平戸市総務部地域協働課協働政策班 主任主事 山口 美津穂

平成 29 年 11 月 27 日

議事録署名委員：福田 詮

議事録署名委員：福海 晶子